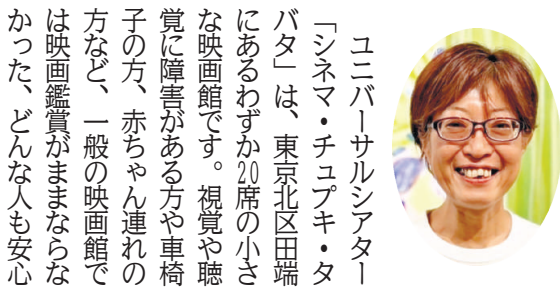


ずいそう



ユニバーサルシアター「シネマ・チュプキ・タバタ」は、東京北区田端にあるわずか20席の小さな映画館です。視覚や聴覚に障害がある方や車椅子の方、赤ちゃん連れの方など、一般の映画館では映画鑑賞がままならなかった、どんな人も安心して

「偶然」から起こる「幸せ」  
平塚千穂子  
(CINEMA Chupki TABATA代表)

てくれました。映画館に訪れるお客様が安心して街を歩けるようにと、横断歩道に音声信号機を、とお巡りさんに伝えてくれたりもしました。  
Happy (幸せ) の語源は、「happening (ハプニング)」＝偶然の出来事と同じだと、聞いたことがありますが。コントロールや想像を超えた「偶然」から起こる「幸せ」。チュプキには、隣に座った人の足元に盲導犬があと

インタビュー

先の国会で38年ぶりに空襲関連法案が野党8党派(空襲議連)によって提出されたものの、審議はされず廃案となりました。東京大空襲で母と弟2人をなくした全国空襲被害者連絡協議会事務局次長の河合節子さん(87)に聞きました。

政府は戦争で傷ついたり亡くなった軍人、軍属とその遺族にはこれまで総額60兆円以上の補償をおこなってきました。その一方、民間人犠牲者には戦後81年を経たいまも補償をしていません。今回、提出された法案は、空襲や沖縄戦などで身体や精神に障害を負い、苦難の道を歩まざるを得なかった「生存者」に50万円の一時金の支給と、政府による空襲被害の実態調査、平和を祈念する追悼事業をおこなうことを求めています。一時金支給の総額は15億円と見積もられています。私ははさやかと思える中身ですが、与党の賛成のほか、給付事務のための法改正を伴い、閣議決定が必要です。これまで東京や大阪空襲、沖縄やフィリピンなど戦争による民間人被害



4月、「救済法の実現を!!」と訴える河合さんら(東京・浅草雷門前)

会」の答申をもって、「戦争犠牲者への補償はしない」と1980年に決めた基本方針に由来します。しかし外国では軍人、民間人ともに補償しています。たとえば日本の同盟国であったドイツやイタリアには民間人の戦争被害に対しても国による賠償制度があります。戦争で被害を受けた民間人を国が切り捨てるなか、名古屋市や東京・世田谷区などの自治体が空襲被害者に見舞金を支給する動きが広がっています。次の臨時国会で再度超党派の議連による法案が提出されることを望んでいます。世論の後押しが必要です。

戦争の民間犠牲者の生きた証を



全国空襲被害者連絡協議会事務局次長

河合節子さん

た基本方針に由来します。しかし外国では軍人、民間人ともに補償しています。たとえば日本の同盟国であったドイツやイタリアには民間人の戦争被害に対しても国による賠償制度があります。戦争で被害を受けた民間人を国が切り捨てるなか、名古屋市や東京・世田谷区などの自治体が空襲被害者に見舞金を支給する動きが広がっています。次の臨時国会で再度超党派の議連による法案が提出されることを望んでいます。世論の後押しが必要です。

B O O K



光文社 1800円＋税

36歳の独身女性・香織が意地で買ったマンション。しかし住んで早々、隣が事故物件となる。ヤクザの出入りや騒音、漏水など遭遇するトラブル。果ては

埼玉マンション物語

篠田節子



新星社 2200円＋税

日本にも長期滞在していた韓国在住のメデア人類学者の著者が、デモをテーマに日韓の民主主義の現在地を探る。ペンライトにユニークな旗、にぎやまることや、デモを支えるソウル市の役割など、初めて知った。隣国の模索を知ること、日本の未来を探るヒントや希望にもなる。

メガホンとペンライト

韓国の「騒ぎながら民主主義」キム・キョンファ



代田知子さん  
おすすめの

子どもの本

大人もぜひ!



好学社 1800円＋税



偕成社 1700円＋税



童心社 1900円＋税

バードボーイ  
キャサリン・ブルートン 作  
尾崎愛子 訳  
danny 絵  
(小学校高学年～)

ぼくの あたらしい ともだち  
オンジャリQ.ラウフ 作  
ビッパ カーニック 絵  
久保陽子 訳  
(小学校低学年～)

ワニのクロッカス むしばになる  
ロジャー・デュボアザン 作  
こみやゆう 訳  
(幼児～)

悲しみを抱えて苦しむ子どもたちにはどんな助けが必要なのか。1冊目、『バードボーイ』の主人公は、心を病んだ母親と都会で暮らしていた少年ウィル。交通事故で母親を亡くし、溪谷で山岳救助隊員として働く無口な伯父に引きとられた。トラウマを抱えたままの彼に明るく声をかけてくれたのは、アフガニスタン難民の少年オマールだ。ウィルは、二人で登った山で絶滅危惧種のミサゴの巣を見つけ、鳥が好きだった母親のことを思い、ミサゴを見守り続ける。ある雨の夜、巣から落ちていたミサゴのひなを連れ帰り、納屋でこっそり育て始めたのだが…。大自然の中で心ある人たちと出会い、人を信じる心を取り戻していく少年の姿を描く感動作だ。  
2冊目『ぼくのあたらしいともだち』

は難民の転校生レイラと、彼女を心配する「ぼく」のお話。誰とも話をせず一人で絵を描くレイラ。そこに描かれているのは、嵐の海を進むボート、もえる家、一人ぼっちで泣いている女の子…。彼女の辛い体験を知った「ぼく」は、一生懸命考えてあることをした。さてそれは？子どもは大人よりずっと自然に「寄り添うこと」ができるようだ。  
最後は『ワニのクロッカス むしばになる』。大きな口に並ぶ立派な歯が何よりの自慢だったワニが、虫歯になり、歯医者に一本残らず抜かれてしまう。すっかり落ち込むワニと農場の動物たちとのやり取りが愉快。「みんなそれぞれ、じぶんがだいじだって おもえるものが ひつようなんだらうね」という最後の言葉も印象的だ。

編集部から

46年間の「秋の行動」の記録から、「私の要求」が「みんなの要求」となり、いまの「当たり前」がつくられてきたと実感。つづきやきを運動に。今年もたくさん女性の要求を聞き、つながっていききたい。(由